

週刊センターニュース No.21



第21号(2004年8月2日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

金沢大学フォーラム in 大阪 来週に迫りました。

当センター企画の「金沢大学フォーラム in 大阪」開催が迫ってまいりました。センター教員による京阪神地区の予備校、高校訪問に加え、京阪神地区出身の学生に母校へのPR葉書を書いてもらうなど、来場者を増やすべく努力をしております。

当大学の教育・研究の成果の一端を大阪の地で披露し、併せて、高校生等の進路相談の場も設ける、この催しへのご協力を、教職員の方々に、強くお願いします。

具体的には、大学HPのトップページにあります

http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad_koho/event/shosai/0809.html

をご確認いただき、特に京阪神地区在住の大学教育関係者、あるいは本学卒業生等にメール等でお知らせいただき、あるいは、当センターが用意しておりますポスターの送付、また、同じく当センターが用意しておりますPR葉書の宛名書き等をお願いします。

詳細は 青野 角間 内線5774 aono@sgkit.ge.kanazawa-u.ac.jp までお問い合わせください。

共同学習会のご案内

- 第32回 日時: 8月3日(火) (13時 ~ 14時30分)
場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室
講師: 早田幸政(大学教育開発・支援センター)
題目: 「高等教育学会参加報告 - 大学の質保証を中心に - 」
- 第33回 日時: 8月10日(火) (13時 ~ 14時30分)
場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室
講師: 西山宣昭、青野透(大学教育開発・支援センター)
題目: 「金沢大学フォーラム in 大阪 参加報告」
- 第34回 日時: 8月23日(月) (13時 ~ 14時30分)
場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室
講師: 岡澤孝雄(留学生センター)
題目: 「留学生向け授業を教養的科目として開講する試みについて」
趣旨: 現在、留学生センターが留学生向けに開講している科目のうちには、日本人学生も受講が望ましい、あるいは日本人学生とともに受講することが留学生にとって有益であるものも多い。教養的科目として開講するために何が必要か、議論する。

平成16年度新任教員説明会に参加して

7月27日、平成16年度新任教員説明会に参加した。午前は、学長より法人化後の金沢大学の基本方針について説明があった。特に注目したのは平成20年度に予定されている3学域への統合構想についてである。理系、文系、医系それぞれの学域内においては現行の学科が維持されるものと思いついていたが、部分的な学科の統合も構想に含まれていることを知ることができた。以下の共同学習

会の報告でも述べるように、3学域間での専門科目の相互提供について検討がはじまっているが、学科の統合に伴う教養教育、専門教育にわたるカリキュラム、科目の開発が必要になると思われる。当センターとしても3学域構想の実現に貢献できる調査データを収集し供していきたい。

午後は、事務局の総務部、研究国際部、財務部、施設管理部、情報部、学生部、病院部から、各部の法人化後の取組や、教員が直接関わる事務手続きなどについて説明があり、短い時間で効率良く知っておくべき知識を得ることができ大変有意義であった。

(文責 西山)

7月の共同学習会 鹿野理事と大村理事の発表から

7月は2週連続で、鹿野教育担当理事と大村研究・国際担当理事に法人化後の取組、基本方針について共同学習会で説明していただいた。

鹿野理事は、平成20年度に予定されている3学域への統合構想の背景と現在進められている準備について解説された。3学域構想は、明確な進路を見出せぬまま入学してくる学生の増加に対応する大学教育改革の一環として構想されたものと考えていたが、大学入学者人口が減少の一途をたどる中、大学における多様な学問分野を死守することに3学域構想の動機があった。私立大学では、需要のない学問領域は次々と切り捨てられてきている。金沢大学の3学域構想は、学部学科の枠をはずすことによって学内の人的、物的資源を流動性を持って最大限有効に利用し、多様な基礎研究分野を切り捨てずに温存するとともに、学内における教育、研究での異分野交流によって新しい研究分野の創出をも目指す攻めの決意表明である。今年度から始まった文、法、経での副専攻制もまた、以上の背景においてよく理解できる。教育企画会議のもとに置かれた専門教育部会では、理系、文系、医系の3学域間での専門科目の相互提供について検討が始まっているとのことであった。また、今後高校に対していかに3学域構想を説明していくかがきわめて重要な問題であると指摘された。

大村理事には、法人化により競争的環境に置かれた本学で進められている研究体制の整備について具体的に説明していただいた。従来からあった組換えDNA、放射性同位元素やX線を使用する実験について審査する委員会に加えて動物、微生物、クローン技術を扱う実験を監視する委員会が再編、新設され、研究上の危機管理体制がより充実したものとなりつつある。また、「フロンティア科学研究機構」が学内に設立され、重点研究経費および若手の萌芽的研究経費に基づいて学内共同研究が促される。これは鹿野理事の話にあった3学域統合での新分野創出を意図したものと思われる。産学連携も取り組むべき重要な課題であると指摘されたが、大学として何のためにやるのか明確なポリシーを持つべきであるとの発言は印象的であった。(文責 西山)

共同学習会への話題提供のお願い

大学教育開発・支援センターでは、昨年度末より教育改善や法人化後の大学環境の変化など、多様な視点から、教職員の間で自由に議論できる場を提供すべく共同学習会を企画してきました。今後も皆様のご意見やご希望を反映させながら企画を進めて参ります。例えば、授業作りやFD関連の話題なども共同学習会で重点的に取り上げていきたいと考えております。日常的な教育実践についてご紹介いただけたらと思います。共同学習会への話題提供をお願いいたします。

センター教員活動記録(7月27日~8月1日分)

2004.7.30「平成16年度第一回ノートイクに係る講習会」を企画、運営(青野)